

桜蔭俳話会

第一二六回通信句会 選句結果

平成二十九年夏。選句数は五句、うち特選一句。

(○内の数字は、特選句数で選句の内数です)

- 5点①踏めそうで踏めない夏至のわが影よ 才美
- 3点 豪雨てふ予報途切れず蝸牛 秀一
- 1点 船影が鯨と写る夏の海 真壽
- 7点 血管の青き迷走日焼の手 かほる

仰ぎ見る水槽海月山形よ

- 1点 夏みかんひとつで足らぬおなかの子 友子
- 1点①思春期の悩み払ひて波に乗る 明美

2点 めつぶれば故郷喪失はたた神 守

3点 図書館に稚の泣き声若葉風 幸子

1点 炎天下行きしも空し市長選 幸枝

1点 黒髪を挙げしうなじの涼しけれ ヤエ子

4点①朝顔や記憶のつるべ虚空へと 則敏

見上げたりどつしり立つや若楓

1点①二つ三つ蛍数へて無心かな 真三

3点①奥座敷古書紐とけば風涼し 邦子

1点 夏草や忘れさられし道祖神 安紀子

2点 武相荘の待たさるもよし夏座敷 幸

すつきりと軽装にする更衣 真三

7点②満ち潮の運河夕焼けを運びをり のり子

3点 女子会の噂話や蝉しぐれ ヤエ子

西日うけ雪村いづみジャズ祭 直子

4点②縄文の遺跡のなかへ蟻の列 則敏

3点①九九算は呪文なりしや夏休 守

1点 広島に両手を合はす夏の朝 真壽

1点①薄切りの野菜透けをり夏きざす 安紀子

1点 朝焼けしレース鳩二羽帰巢せり 幸

6点 バス停の小さき片蔭ゆづり合ふ 幸子

2点①配線の弛み引き合ふ祭前 かほる

1点 残されし山百合一本崖つぶち 邦子

5点①喝采の紙切り芸や夏木陰 友子

3点①怒りんぼうにとどめ刺さうかソーダ水 才美

1点 雷や大地目指して大気裂く 幸枝

2点①転職の夏あたらしき定期券 明美

7点①洗濯機回すをとこの晩夏かな 秀一

3点 退院の母に揃へし夏衣 幸子

待つてたぞ花火上がる祭かな 直子

1点 ひんやりと堅穴住居徹句ふ 友子

山こなたひときわなりし蝉しぐれ 真三

3点①復員の父の無言や敗戦日 幸

1点①水鉄砲このあまのじやく撃つてみよ 才美

1点①天上をつきあく花火雨さそふ 安紀子

1点 退院や今夜のおかず鰻なり ヤエ子

3点 中三男子扇に大志と書きにけり 幸枝

1点 梶子や浮世の罪は誰に在る 真壽

1点①花虻の花粉まみれや薔薇満開 のり子

2点①長距離のサーピスエリア三尺寝 明美

1点 友の忌の風死す夜や更けにけり 邦子

5点①海よりの風の緩やか青蜜柑 守

なほ繁る枝仰ぎけり夏落葉 秀一

2点 黒靴の三人日傘折りたたむ かほる

2点 蜘蛛の囿に煌めき与え消える月 則敏

「事務局からお知らせ」

○九月句会

九月二十四日(日)午後一時から、旭区民文化セン

ター(サンハート)で行います。

兼題は、「秋場所」

○十月句会

十月二十八日(土)、都筑区の大塚歳勝土遺跡で吟行。

その後、横浜市歴史博物館の会議室で句会を行います。

詳細は、後日、お知らせします。

○十一月句会

十一月十八日(土)午後一時から、旭区民文化セン

ター(サンハート)で行います。いつもと異なり、

土曜日ですのでお間違いの無いように。

諸先生御選

あかざ主宰 飯村 寿美子 選

◎配線の弛み引き合ふ祭前 松浦かほる

踏めそうで踏めない夏至のわが影よ 恩田 才美

血管の青き迷走日焼の手 松浦かほる

夏みかんひとつで足らぬおなかの子 藤本 友子

九九算は呪文なりしや夏休 増田 守

頂点同人 鶴巻 ちしろ

◎水鉄砲このあまのじやく撃つてみよ 恩田 才美

怒りんぼうにとどめ刺さうかソーダ水 恩田才美

洗濯機回すをとこの晩夏かな 佐渡谷秀一

中三男子扇に大志と書きにけり 櫻井 幸枝

友の忌の風死す夜や更けにけり 平野 邦子

末黒野主宰 小川 玉泉 選

◎転職の夏あたらしき定期券 古野 明美

豪雨てふ予報途切れず蝸牛 佐渡谷秀一

満ち潮の運河夕焼けを運びをり 柏尾のり子

退院の母に揃へし夏衣 辻 幸子

ひんやりと竪穴住居黴匂ふ 藤本 友子

春燈同人 西山 浅彦 選

◎花虹の花粉まみれや薔薇満開 柏尾のり子

満ち潮の運河夕焼けを運びをり 柏尾のり子

バス停の小さき片蔭ゆづり合ふ 辻 幸子

海よりの風の緩やか青蜜柑 増田 守

蜘蛛の囀に煌めき与え消える月 坂本 則敏

炎環主宰 石 寒太 選

◎海よりの風の緩やか青蜜柑 増田 守

図書館に稚の泣き声若葉風 辻 幸子

バス停の小さき片蔭ゆづり合ふ 辻 幸子

洗濯機回すをとこの晩夏かな 佐渡谷秀一

黒靴の三人日傘折りたたむ 松浦かほる

※通信句会の選者、圓主宰の石河義介先生は都合で選句をお休みされました。